

キラッと光る丹波市の「人・もの・いん」のええなあを紹介します。

柏原自治協議会

バラで街中を彩りまちづくり



訪れる人をおもてなし キーワードは「バラ」

柏原自治協議会では、城下町に訪れる人をおもてなしするため、バラで街中を彩る活動をしています。新たに、新生児や中学3年生にバラを贈る活動を始めました。

バラをつかったまちづくりを進めている柏原自治協議会の西垣伸彌会長に話を聞きました。写真は、バラを贈った家族とバラの手入れのときのもの。

この活動は、観光協会柏原支部の解散を契機に、地域で城下町について考えたことが始まりです。現在は、柏原駅裏の川沿い、国道176号沿いの柏原本町交差点付近の公園、柏原自治協議会の駐車場の3カ所でバラを育てています。5月には、城下町の情緒残る街みなみにバラが咲き誇る、美しい光景が広がります。全国的に観光地で写真を撮る人が増えており、バラが新たな魅力になればと考えました。

市内外の愛好家が交流

訪れる人をもてなしてくれるバラですが、難点は手入れが難しいことです。地域で「かいバラ友の会」を結成し、月1回程度手入れをしています。今年からは、「一般の参加者を募集して、年3回の「バラのお手入れ講習会」を開催。講師を招いて、バラの育て方や手入れの方法を学ぶ会を設けています。

講習の終了後には、ティーパーティーやワークショップを行い、バラを中心としたコミュニケーションの場としての役割も果たしています。県下からバラの愛好家が集まり、市のことや城下町を知つてもひつきつかけになっています。

バラじゅぱるのまちづくり

今年度初めて、新生児と中学校3年生にバラを贈りました。中学生には、新井自治協議会の協力を得て実施しました。人生の節目を地域が祝い、バラを贈ることで、ふるさとに愛着をもつて生活をしたり、市外で生活をしていてもバラを見に帰ろうと思つてもらえばいいなと思つています。自宅で植える場合は、ぜひ外から見える場所にして頂いて、まちの彩りになつてほしいですね。

人生の節目プロジェクト

3回と参加する方や、手入れしたバラが咲く姿が見たいと丹波市を再び訪れる方もあり、とてもうれしいです。